

## 交換ノートを活用した保護者支援について

林 徳子・小柳 達朗

聴覚障害を持つ幼児の成長を支えるものとして、保護者支援は重要である。これまで担任していた学級では、幼稚部入学から修了までの3年間にわたって担任と母親との間で交換ノートのやりとりを行ってきた。母親は、家庭での子どもの様子や学校で疑問に思ったこと等、自由に書いて提出し、担任は、エピソードごとにコメントを記入して戻す。今回、どのような意図を持ったコメントが書かれてきたか、また交換ノートがどのように母親支援に活用されてきたかを、3年間の担任のコメントの整理や母親からの感想などを通して明らかにした。母親支援をより深めていくための一つの手立てとして有効であった。

キー・ワード：交換ノート 保護者支援 母親

### 1 はじめに

聴覚障害を持つ幼児の成長、発達を支えていくためには、家庭との連携や保護者への支援は重要な役割をもっている。

本校幼稚部は、母親が毎日子どもに付き添い、授業の様子を見たり、一緒に活動したりしている。担任は、母親と一緒に考えながら、具体的な関わり方を実際にやってみせる、遊びなど実際の例を提案する、学級だよりを出すなど、様々な方法で母親支援をしている。小林（2008）は、保護者支援について、「保護者の考え方やおかれている状況を理解して対応することが重要である」と述べている。毎日の学校生活の中で、担任は、母親に指導の意図を伝えたり、アドバイスしたりする事も多いが、その前提には母親との関係作りがある。母親の考えを聞いて、理解することが必要となる。一方で一人一人の母親との話に十分な時間がとれない難しさもある。そこで、これまで担任をしてきた学級では、幼稚部入学から修了までの3年間にわたり担任と母親との間で交換ノートのやりとりを行ってきた。

今回、3年間の担任のコメントを整理し、どのような意図を持ったコメントが書かれていたか、また交換ノートがどのように母親支援に活用されてきたかについて報告する。

### 2 □目的

どのような意図をもったコメントが書かれてきたか、また交換ノートがどのように母親支援に活用

されてきたかを、3年間の担任のコメントの整理や母親からの感想などを通して明らかにする。

### 3 □方法

#### （1）対象

過去に3歳児から5歳児までの3年間担任をした幼児のうち、交換ノートのやりとり数が安定していた5人のノートを対象とした。

#### （2）交換ノートやりとりの方法

ノートは入学式の日母親に渡し、家庭での子どもの様子や学校で疑問に思ったこと等、自由に書いて提出してもらう。提出のタイミングは、各々の母親のペースに任せる。担任がコメントを記入して戻す。また、3年の修了時に、交換ノートの感想を母親に自由に書いてもらう。

#### （3）交換ノートのやりとりに際しての留意点

交換ノートをやりとりするにあたって、以下の三点に留意した。

- ①書いたことが担任に伝わっている、と母親が実感できるようにする。
- ②担任の指導意図に関することや具体的な関わり方に関するコメントは、必ず直接話す機会を作る。また実際の関わり場面を通して、担任の意図と母親の理解、母親の実際の動きにずれや誤解が生じていないかをよく見て確かめる。
- ③子どもの成長を実感してほしい時に、成長記録と

## 2 交換ノートを活用した保護者支援について

して読み返すように勧める。

①については、具体的な手立てとして以下の事柄を行うようにした。

- ・質問や疑問には、できるだけ早く応えられるようにする。(基本的にはその日のうちに対応する。調べることが必要な場合は、進捗状況をこまめに伝えるようにする。)
- ・エピソードの内容を、学校での子どもとのやりとりに活用する。
- ・母親が描いてきたエピソードごとに、コメントを書くようにする。

②については、母親から悩み、疑問などが出された場合に、担任が関わり方や指導意図などをコメントとして書いて応じていくことになるが、返事を返したことで終わりにせず、担任からのコメントを母親がどのように受け止め、実践に移したか、受け止めにずれや誤解がないか等を母親の言動等をよく見て確認する意識を持つようにした。

③については、個別指導の時間に一緒に読み返して振り返りをしたり、担任が折に触れて読み返しながら、母親の気持ちの動きをつかんだり、子どもの成長が感じられる所を話題に挙げたりするようにした。

(4) 5人の母親をA, B, C, D, Eとし、3年間の担任のコメントの内容を整理し、その記述に応じて書いたコメントの数や種類を比較検討する。また母親の感想を表にまとめ、検討する。

## 4 結果

### (1) コメント整理の結果

担任がA, B, C, D, Eの記述に応じて書いたコメントの数と種類について比較検討した。分類は以下のようにした。母親の考え方や気持ちに共感したり、母親の実践や考えを賞賛したり励ましたりすることを意図しているコメントを「共感・励まし」、子どもの言動から気持ちを読み取ったり、意味づけをしたりすることを意図しているコメントを「行動の読み取り」、今の実践がどんな姿につながるのか、子どもの成長の見通しを伝えることを意図している

コメントを「成長」、実践上のより具体的な方法について、助言したり例示したりすることを意図しているコメントを「助言(生活)」, 「助言(やりとり)」とした。

3歳, 4歳, 5歳それぞれのコメントの総数は、図1の通りである。

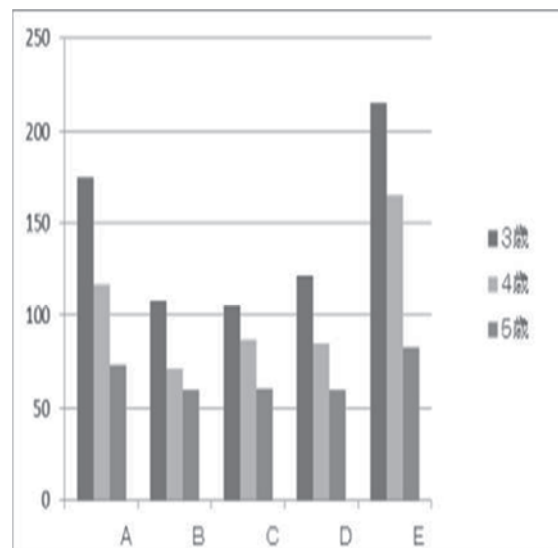


図1 担任のコメントの総数

担任のコメントの総数は、いずれも3歳児が最も多く、年齢が上がってくると減っていった。

次に、各年齢ごとのコメントの分類を行った。ABCDE共に同様の特徴であったため、図2では、Aのコメントの分類を挙げる。

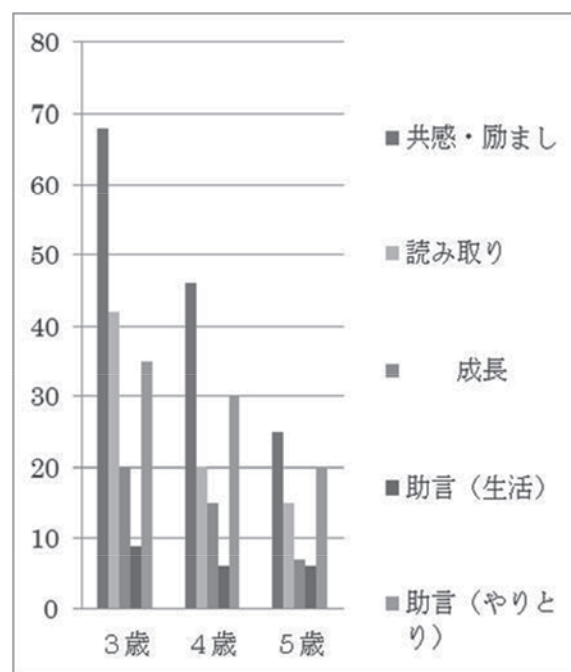


図2 Aのコメントの分類

(2) 交換ノートについての母親からの感想  
母親からは表1のような感想が出された。

表1 交換ノートの良かった点、大変だった点

良 か っ た 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を書くか考えるから家で子どもがしていることをよく見るようになった。</li> <li>・どうしたらいいかな、と思ったら、書いておかないと忘れるので、とりあえずノートにメモするようにした。</li> <li>・気持ちがもやもやした時に書くと、自分の悩みや考えが整理された。</li> <li>・どんなことでも返事を書いてもらえて嬉しかった。</li> <li>・時々読み返すと、子どもの成長が感じられて頑張ろうと思えた。</li> </ul>
大 変 だ っ た 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くのが苦手で、少ししか書けなかった。</li> <li>・忙しくて書く時間を作るのが大変だった。</li> </ul>

## 5 考察

3歳児が担任のコメントの数が最も多く、4歳児、5歳児になるにつれて少なくなった。母親の記述内容をみると、5人共に3歳児は、家庭での子どもの様子やちょっとしたエピソードが日記のように細かく書かれていた。それが次第に子どもとのやりとりで気にかかったところや具体的な助言を求めたいところなどに変わってきていた。総数の変化は、母親がノートに書く内容が絞られてきたことが理由の一つと考えられる。

どの年齢でも、総数の違いはあるものの、母親への共感・励ましをベースにしながら助言をしていることが読み取れた。

コメントの内容について、年齢毎に考察する。

3歳児は、母親が担任に気持ちや悩みを率直にだせるような信頼関係を作ることに重きを置いた。家庭での子どもの様子やちょっとしたエピソードから読み取れる母親の嬉しさや、子どもの可愛らしさ等、一つ一つに「大変でしたね。」「かわいいですね。」等と共感を意図したコメントを書いていった。またこの時期は、身近な大人が、子どものしぐさや行動から気持ちを読み取ったり、行動の意味づけをしたりしながら関わることが多い。そして子どもの気持ちをくみ取りながら身ぶりや言葉、実物の提示など様々な方法で子どもと伝え合いをする。その為、母親が気づいていない子どもの気持ちに気づいてもらえたらと考え、母親が書いてきた子どもの様子から気持ちを读みとってコメントしたところが多かったと考える。

4歳児は、母親が子どもの成長を喜びながらも、強く自己主張をする子どもとのやりとりに困っていること、母親なりに子どもに伝わるように工夫してみたこと等、ノートに書かれる話題が3歳児と比して絞られてきた。それに応じて、困った気持ちに共感し、取り組みを励ましたり労ったりしながら、具体的なやりとりの方法を示すことを意図したコメントが多かったと考える。繰り返し丁寧に伝える、話を最後まで見て聞くよう促す等のやりとりのポイントを、この時期はよく伝えているため、コメントでもやりとりへの助言が多くなったと考える。

5歳児のコメントでは、母親からの質問や疑問に応じた助言が多かった。この時期、母親が子どもの様子を見て気になったことや疑問が、整理されてノートに書かれてくるが増えた。母親の疑問に応える形でノートが活用されたことが理由の一つとして考えられた。

また、母親の感想から、自分の悩みや考えを整理するための機会作り、成長記録として、疑問の解消など、様々な活用がなされていたことがわかった。交換ノートが子育てへの意欲や自信を支える一つの手立てとなったことが伺えた。そして、内容、提出のペースを自由にしたことで母親にあわせた活用ができたと考える。

## 4 交換ノートを活用した保護者支援について

### 6. まとめ

交換ノートのやりとりは、母親の子育てへの意欲や自信を支える一つの手立てとして有効だった。コメントを書く際、母親がノートに書こうと考えた心情やその時期の子どもの様子にあわせて、意図を持ってコメントの内容を選ぶ必要性を再確認した。また、母親の関心事や悩みをより具体的に知ったり、繰り返し読み返すことで、自分の考えを整理したり反省したりすることに時間をかけられたこと等、担任の自己研鑽にもつながった。交換ノートを、母親が日頃の思いを表現できる場の一つととらえ、今後も活用を継続していきたい。

### 【参考文献】

筑波大学附属聴覚特別支援学校 幼稚部(2011)

幼稚部教育課程 聾教育研究会

小林 倫代(2008)

障害乳幼児を養育している保護者を理解するための視点, 国立特別支援教育総合研究所研究紀要 35, 75-87